

但馬管内の景気動向調査

2020年7～9月期実績・2020年10～12月期見通し

【特別調査】

新型コロナウイルスの感染拡大を受けた中小企業の対応について

調査の概要

1. 回答数: 487 (前回: 436)
 2. 調査時点 2020年9月上旬
 3. 当金庫 営業店の調査員による、共通の調査表に基づく聴取り調査
 4. 分析方法: ディフュージョン・インデックス(D.I.)
景気の各項目事項について、「増加」(良い)－「減少」(悪い)の構成比の差＝
判断 D.I.に基づく分析
- ※全国とは、信用金庫の中央機関である信金中央金庫が全国各地の信用金庫から調査した調査の結果を示している。



但馬信用金庫

1. 概況（回答数487 前回436）

今回(2020年7～9期)の業況D.I.は△50.0と、前四半期の過去最悪水準から22.7ポイントの改善となった。前四半期比では、全ての業種で改善となっている。売上額D.I.、収益D.I.、資金繰りD.I.など、多くの項目も改善しているが、コロナ前と比較するとまだ低い水準である。

次回(2020年10～12月期)の業況D.I.は△46.3と僅かに改善見通しとなっているが、依然としてマイナス水準であり、厳しい予想である。

全体	2020年7～9月期実績	前四半期比	2020年10～12月期予想
業況D. I.	△ 50.0	22.7	△ 46.3
前年同期比売上額D. I.	△ 60.8	12.1	-
前年同期比収益D. I.	△ 58.9	11.9	-
売上額D. I.	△ 26.7	43.5	△ 26.4
収益D. I.	△ 28.3	40.2	△ 24.3
資金繰りD. I.	△ 27.8	17.6	△ 26.4
借入金の難易度D. I.	△ 8.1	0.6	-
前期比残業時間D. I.	△ 25.9	15.4	△ 19.5
人手過不足D. I.	△ 4.3	△ 6.9	△ 7.6

業種名 \ 時期	2020年 4月～6月	2020年 7月～9月	2020年 10月～12月(見通し)
総合			
製造業			
建設業			
卸売業			
小売業			
不動産業			
サービス業			

(この天気図は、過去1年の景気指標を総合的に判断して作成したものです。)

好調 ← → 低調



2. 製造業（回答数 91 前回 87）

今回(2020年7～9期)の業況D.I.は△72.2。前四半期からの改善も僅かであり、最も厳しい水準の業種であった。

受注残D.I.が△47.8、資金繰りD.I.が△34.1と、それぞれ前四半期比では改善しているものの厳しい状況である。

次回(2020年10～12月期)の業況D.I. △56.8についても、業種内で最悪の水準となっている。

製造業	2020年7～9月期実績	前四半期比	2020年10～12月期予想
業況D.I.	△ 72.2	3.1	△ 56.8
前年同期比売上額D.I.	△ 72.5	3.1	-
前年同期比収益D.I.	△ 71.4	5.3	-
売上額D.I.	△ 48.4	20.6	△ 29.2
受注残D.I.	△ 47.8	17.3	△ 28.4
収益D.I.	△ 46.2	24.0	△ 24.7
販売価格D.I.	△ 2.2	9.3	2.2
原材料価格D.I.	8.8	14.5	7.9
原材料在庫D.I.	13.2	△ 6.4	12.4
資金繰りD.I.	△ 34.1	8.5	△ 19.1
借入金の難易度D.I.	1.1	6.8	-
前期比残業時間D.I.	△ 45.1	6.7	△ 28.6
人手過不足D.I.	5.6	△ 13.0	3.3
現在の設備D.I.	△ 2.2	1.3	-
設備投資D.I.	22.0	△ 9.1	-
来期設備投資D.I.	30.8	3.2	-

3. 建設業（回答数 96 前回 89）

業況D.I.は今回△29.2となり、マイナス水準であるものの、最も良い業種であった。前四半期比 25.9についても改善幅として一番大きかった。

次回(2020年10～12月期)について、大幅な改善は見込まれていないが、業況D.I.△26.6については他の業種と比べるとマイナスが少ない状況である。

建設業	2020年7～9月期実績	前四半期比	2020年10～12月期予想
業況D.I.	△ 29.2	25.9	△ 26.6
前年同期比売上額D.I.	△ 38.5	15.4	-
前年同期比収益D.I.	△ 38.5	13.1	-
売上額D.I.	△ 24.0	26.6	△ 22.1
受注残D.I.	△ 25.0	27.8	△ 21.1
施工高D.I.	△ 19.8	18.4	△ 15.8
収益D.I.	△ 29.2	13.5	△ 18.9
請負価格D.I.	△ 13.5	2.2	△ 13.8
材料価格D.I.	15.6	4.4	14.7
在庫D.I.	1.0	7.8	1.1
資金繰りD.I.	△ 12.5	13.3	△ 20.0
借入金の難易度D.I.	△ 6.3	△ 4.0	-
前期比残業時間D.I.	△ 14.7	10.0	△ 14.9
人手過不足D.I.	△ 16.8	△ 1.1	△ 17.0
現在の設備D.I.	△ 4.2	2.6	-
設備投資D.I.	26.0	6.9	-
来期設備投資D.I.	26.0	3.6	-

4. 卸売業（回答数50 前回46）

今回(2020年7～9期)の業況D.I.は△54.0。製造業に次ぎ厳しい水準となっている。

前四半期同様に、前年同期比売上額D.I.が△80.0となっており、前年からの売上減少が大きい状況が続いている様子である。

次回(2020年10～12月期)は、売上額D.I.が△39.6、収益D.I.が△35.4となっており、業況D.I.も△52.1と厳しい見立てとなっている。

卸売業	2020年7～9月期実績	前四半期比	2020年10～12月期予想
業況D.I.	△ 54.0	24.3	△ 52.1
前年同期比売上額D.I.	△ 80.0	2.6	-
前年同期比収益D.I.	△ 76.0	△ 2.1	-
前年同期比販売価格D.I.	△ 6.0	7.0	-
売上額D.I.	△ 28.0	41.6	△ 39.6
収益D.I.	△ 34.0	35.6	△ 35.4
販売価格D.I.	0.0	15.2	△ 14.6
仕入価格D.I.	4.0	10.5	△ 4.2
在庫D.I.	24.0	24.0	16.7
資金繰りD.I.	△ 20.4	20.9	△ 22.9
借入金の難易度D.I.	△ 18.4	△ 1.0	-
前期比残業時間D.I.	△ 36.0	5.3	△ 22.9
人手過不足D.I.	△ 4.0	△ 4.0	△ 12.5
現在の設備D.I.	△ 10.0	△ 3.2	-
設備投資D.I.	26.0	8.6	-
来期設備投資D.I.	26.0	4.3	-

5. 小売業（回答数77 前回67）

今回(2020年7～9期)の業況D.I.は△53.9。前四半期比22.2となり、改善は窺えるが依然として厳しい状況である。

前四半期は、資金繰りD.I.が△55.2と非常に厳しい状況であったが、今回は△29.9とやや緩和している。

次回(2020年10～12月期)の業況D.I.は△50.0となっており、小幅な改善の見通しとなっている。

小売業	2020年7～9月期実績	前四半期比	2020年10～12月期予想
業況D.I.	△ 53.9	22.2	△ 50.0
前年同期比売上額D.I.	△ 67.5	10.1	-
前年同期比収益D.I.	△ 57.9	13.7	-
前年同期比販売価格D.I.	△ 10.4	6.0	-
売上額D.I.	△ 27.3	47.4	△ 37.3
収益D.I.	△ 28.6	46.1	△ 33.3
販売価格D.I.	△ 2.6	21.3	1.4
仕入価格D.I.	0.0	11.9	10.7
在庫D.I.	3.9	△ 11.0	1.3
資金繰りD.I.	△ 29.9	25.4	△ 28.0
借入金の難易度D.I.	△ 18.7	0.7	-
前期比残業時間D.I.	△ 20.8	13.5	△ 20.0
人手過不足D.I.	1.3	△ 1.8	△ 4.0
現在の設備D.I.	△ 2.6	0.4	-
設備投資D.I.	10.4	△ 13.5	-
来期設備投資D.I.	14.3	△ 6.6	-

6. 不動産業（回答数13 前回10）

今回の業況 D.I.は△38.5 であり、前四半期比+1.5 ポイントと小幅な改善に留まっている。

販売価格 D.I.の前四半期比が 25.0 となっており、販売価格はやや持ち直していることが窺える。

次回(2020年10～12月期)の業況 D.I.は△50.0 となっている。他の業種では、横ばいもしくは小幅な改善を見込んでいる中、悪化を見込む厳しい見通しである。

不動産業	2020年7～9月期実績	前四半期比	2020年10～12月期予想
業況D.I.	△ 38.5	1.5	△ 50.0
前年同期比売上額D.I.	△ 46.2	△ 6.2	-
前年同期比収益D.I.	△ 58.3	△ 8.3	-
売上額D.I.	△ 46.2	3.8	△ 41.7
収益D.I.	△ 38.5	11.5	△ 33.3
販売価格D.I.	△ 8.3	25.0	△ 9.1
仕入価格D.I.	△ 8.3	△ 8.3	△ 9.1
在庫D.I.	△ 33.3	11.1	△ 36.4
資金繰りD.I.	△ 23.1	△ 3.1	△ 33.3
借入金の難易度D.I.	7.7	7.7	-
前期比残業時間D.I.	△ 30.8	19.2	△ 33.3
人手過不足D.I.	0.0	20.0	0.0

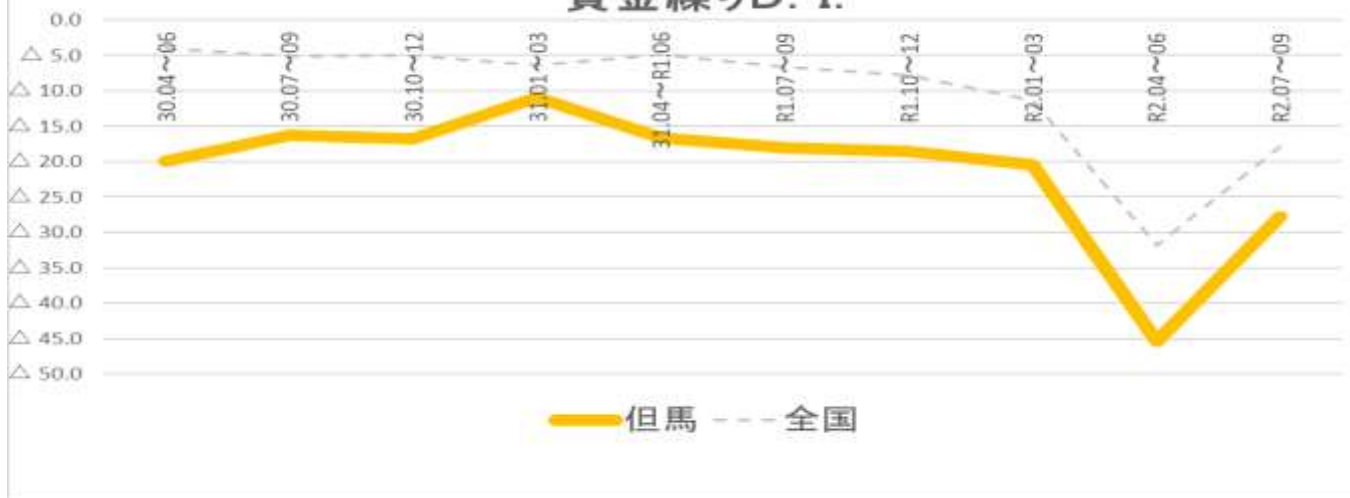
7. サービス業（回答数160 前回137）

今回(2020年7～9期)の業況 D.I.については△47.8 と厳しい状況が続いているが、前四半期比では 33.8 と改善幅は大きかった。しかしながら、資金繰り D.I.は△35.0 と最も厳しい業種であった。

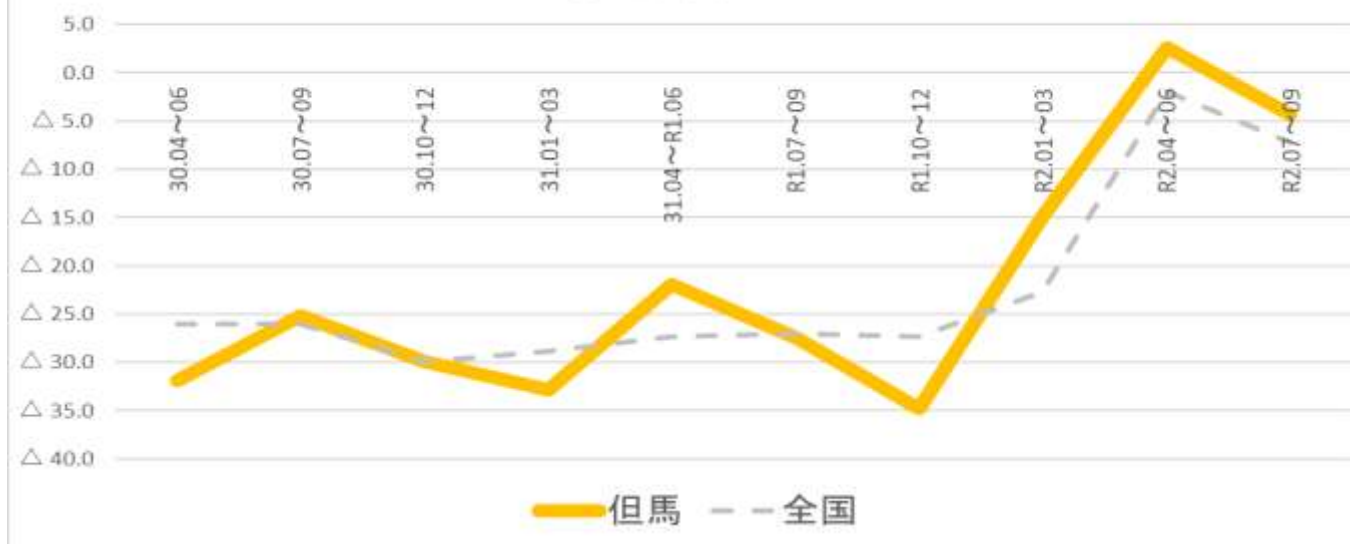
次回(2020年10～12月期)の業況 D.I.については△48.4 と横ばいの予想。資金繰りにしても△34.2 とあまり改善しない見通しである。

サービス業	2020年7～9月期実績	前四半期比	2020年10～12月期予想
業況D.I.	△ 47.8	33.8	△ 48.4
前年同期比売上額D.I.	△ 59.4	20.9	-
前年同期比収益D.I.	△ 59.2	20.3	-
売上額D.I.	△ 13.8	69.5	△ 16.8
収益D.I.	△ 15.0	67.5	△ 18.7
料金価格D.I.	3.1	17.0	0.6
材料価格D.I.	6.3	12.1	9.7
資金繰りD.I.	△ 35.0	23.4	△ 34.2
借入金の難易度D.I.	△ 7.7	△ 0.3	-
前期比残業時間D.I.	△ 20.6	27.6	△ 14.4
人手過不足D.I.	△ 5.6	△ 12.3	△ 9.2
現在の設備D.I.	△ 14.4	5.5	-
設備投資D.I.	23.1	10.7	-
来期設備投資D.I.	28.1	9.1	-

資金繰りD. I.



人手過不足D. I.



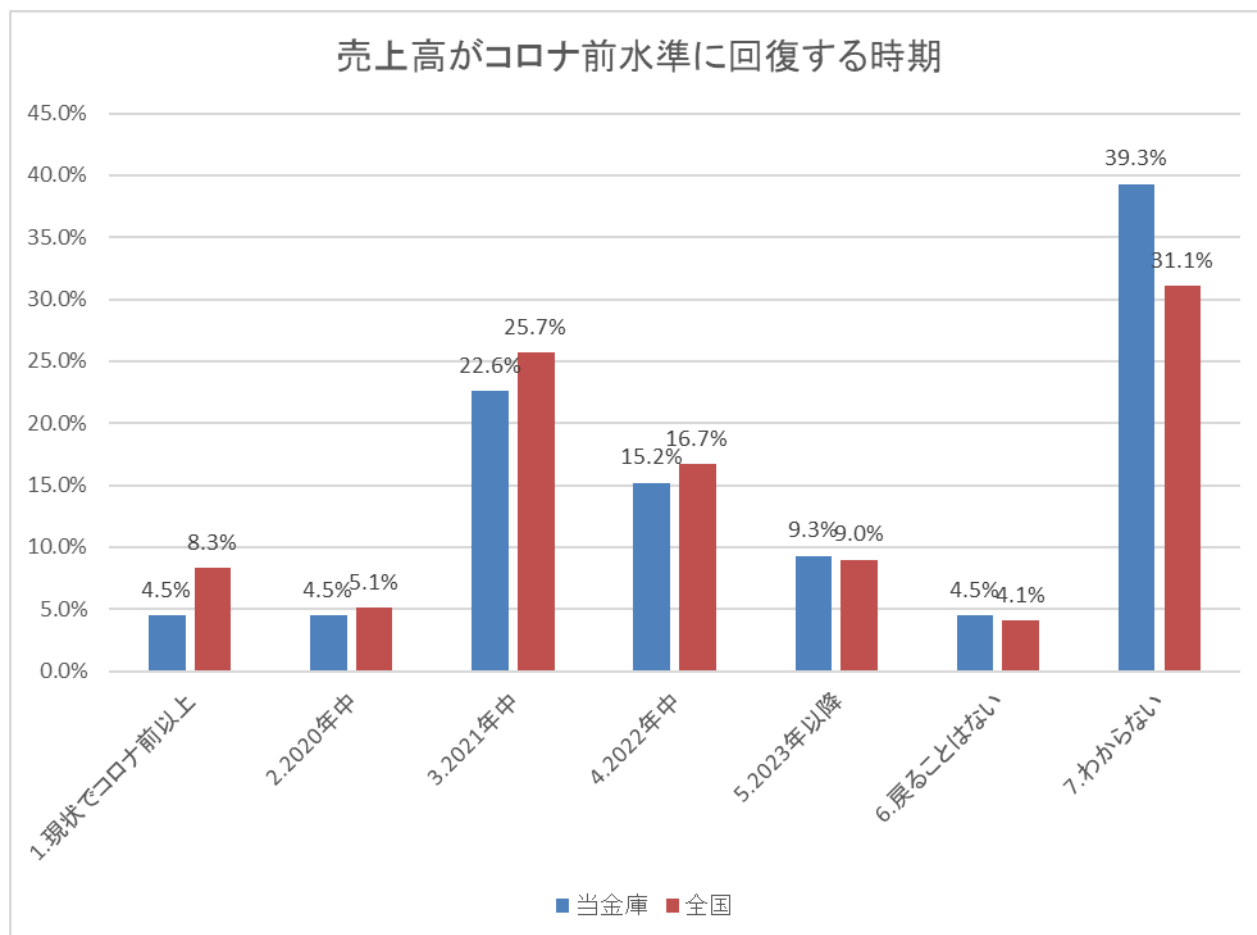
前年同期売上額D. I.



《特別調査》新型コロナウイルスの感染拡大を受けた中小企業の対応について

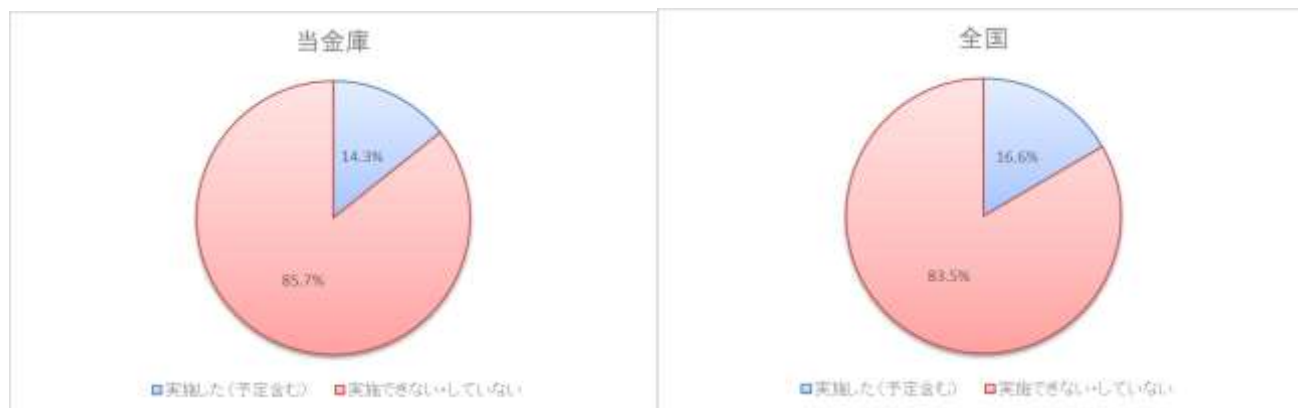
【問1】売上の回復時期

売上がコロナ前の水準に回復する時期を、いつごろと見込んでいるかについては、当金庫内・全国ともに「わからない」が最も多く、先行き不透明と感じている企業が多い。「わからない」に次ぐ回答は、「2021年中」「2022年中」と続いており、当金庫内・全国で同じ傾向であった。

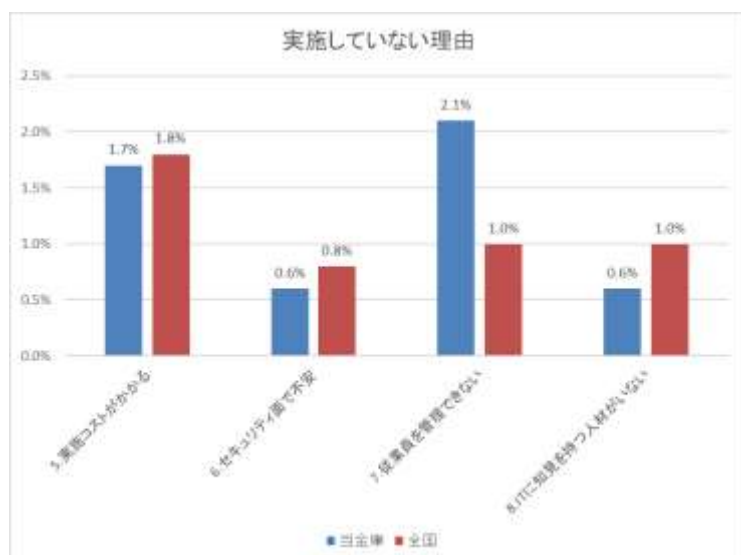
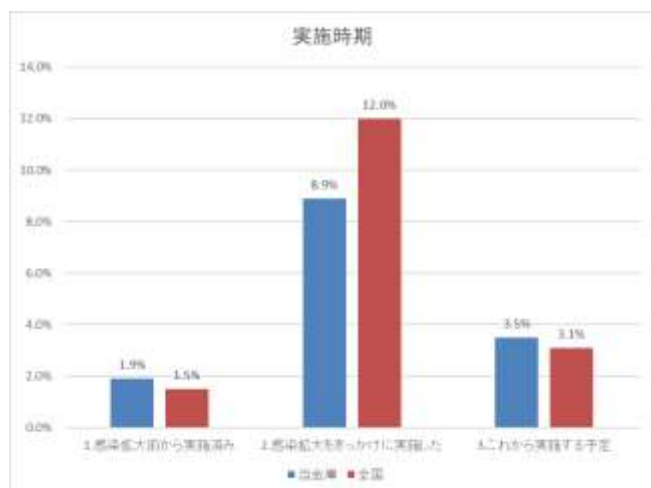


【問2】 出社を必要としない就労形態の実施状況

テレワークや在宅勤務、リモートワークといった、出社を必要としない就労形態を実施（予定を含む）しているかについては、「実施した（予定含む）」が当金庫内 14.3%に対して全国 16.6%と、当金庫内のほうがやや低かった。



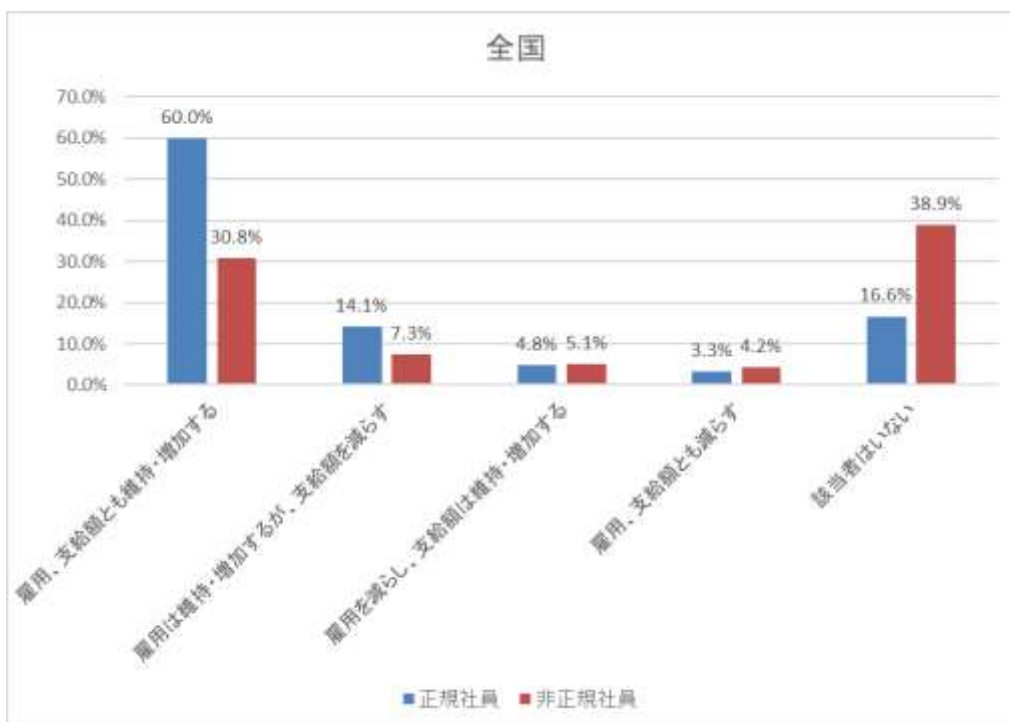
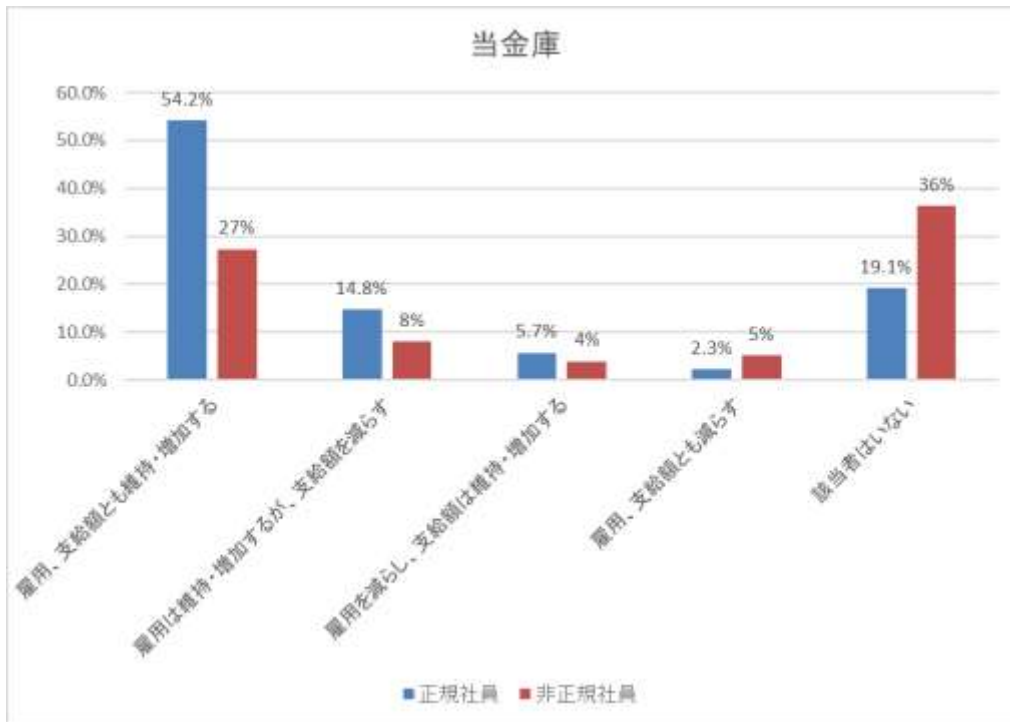
「実施した（予定含む）」と回答した先の実施時期については、「感染拡大をきっかけに実施した」が、当金庫内・全国とも一番多かった。「実施していない」と回答した先の実施していない理由については、「従業員を管理できない」が全国と比較して当金庫内がやや多かった。



【問3】雇用ならびに1人当たり支給額の方針

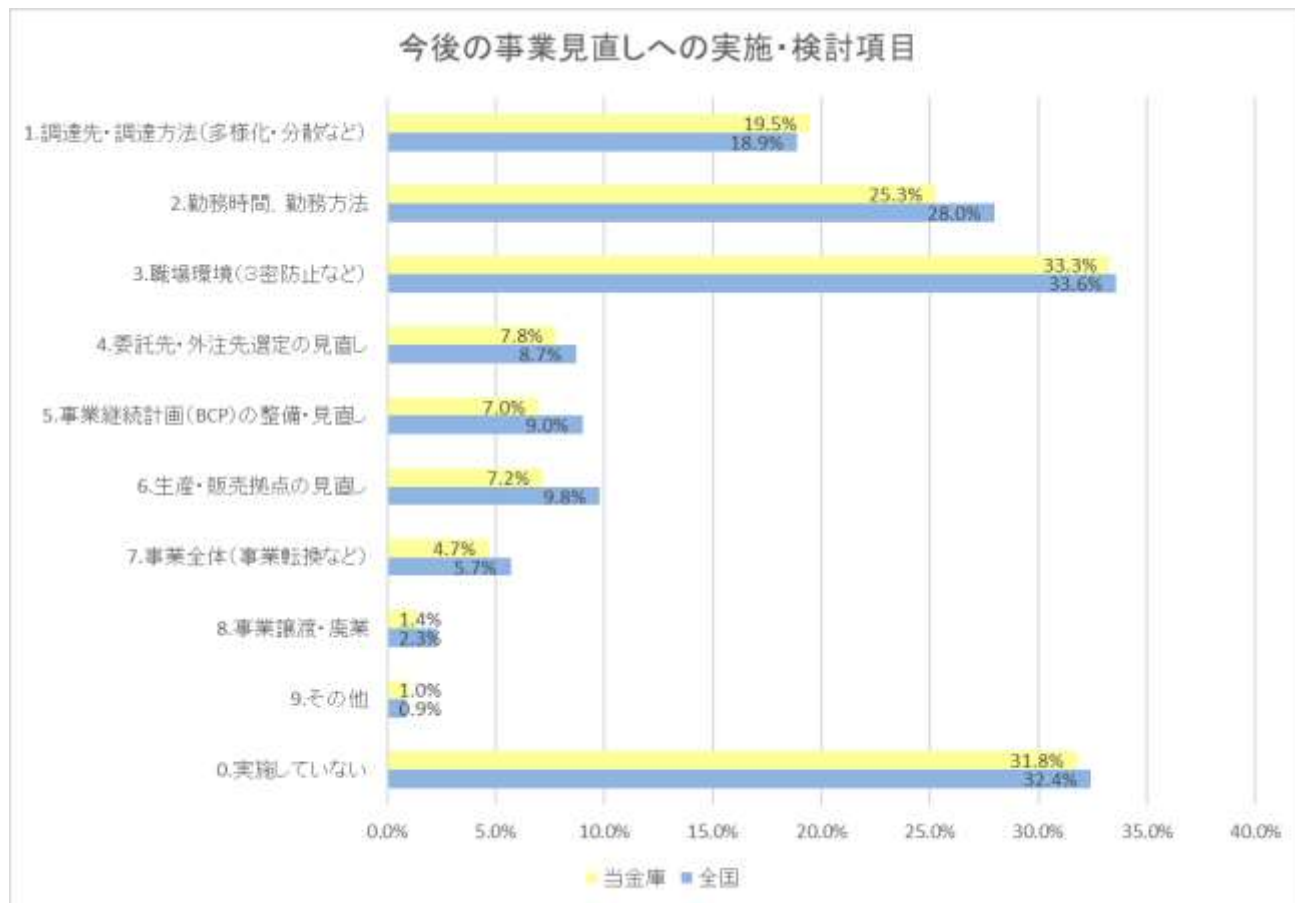
雇用ならびに1人当たり支給額（給与、手当、賞与等）に関する方針（予定を含む。）については、正規社員・非正規社員のいずれも「雇用、支給額とも維持・増加する」が当金庫内・全国とも最も多かった。（「該当者はいない」を除く）

しかしながら、「雇用、支給額とも維持・増加する」の回答は、非正規社員に関しては正規社員の半分程度に留まっており、非正規社員にとって厳しい状況が窺える。



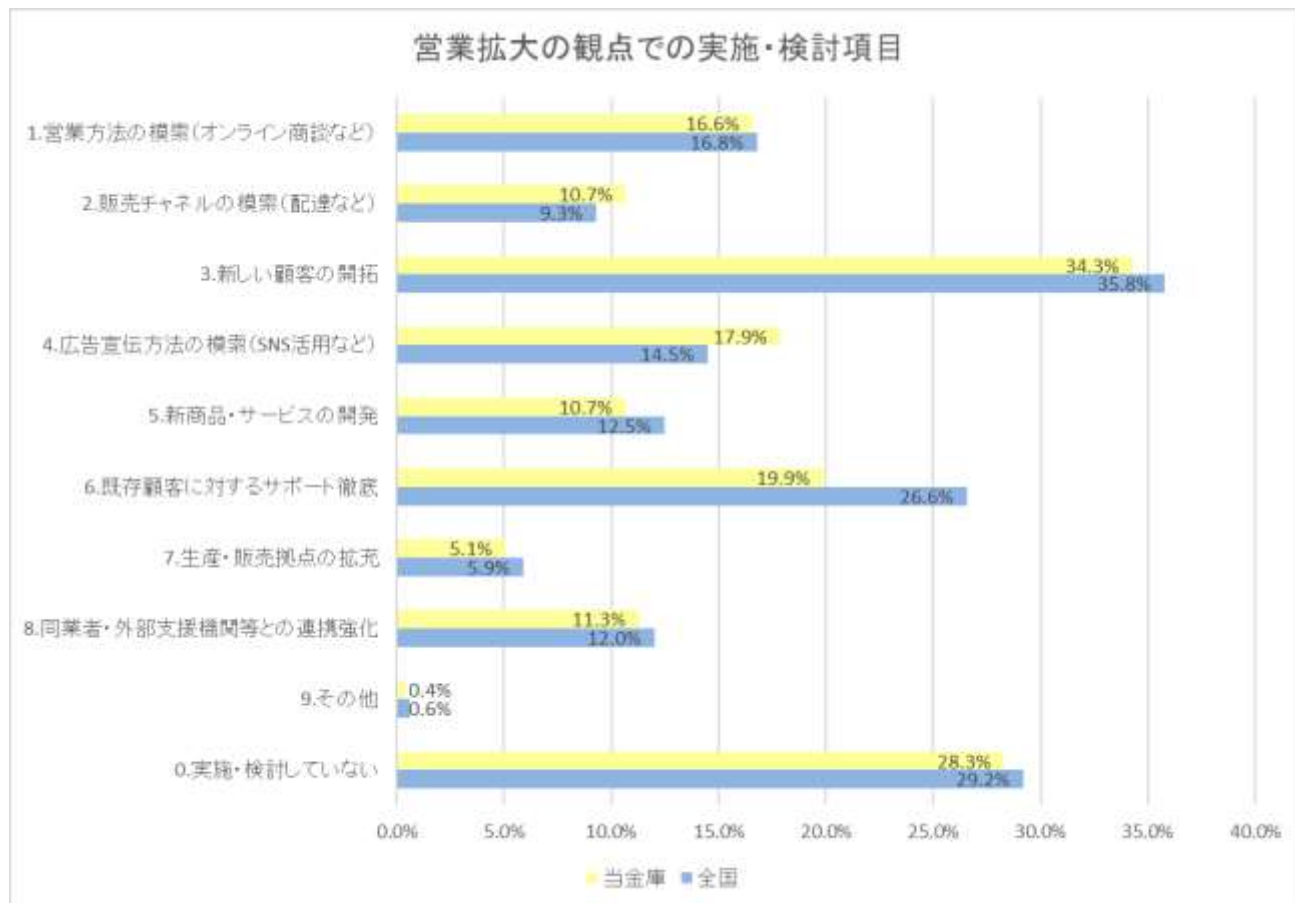
【問4】 今後の事業の見直しについての実施・検討状況

今現在、今後の事業の見直しについて実施・検討していることについては、当金庫内・全国ともに「職場環境（3密防止など）」が最も高く、以下「勤務時間、勤務方法」「調達先・調達方法（多様化・分散など）」が続いた。また、「実施していない」とする回答も一定数あった。



【問5】営業拡大の観点での実施・検討状況

今現在、営業拡大の観点で実施・検討していることについては、当金庫内・全国ともに「新しい顧客の開拓」が最も多く、「既存顧客に対するサポートの徹底」が続いた。当金庫内では、全国と比較して「広告宣伝方法の模索（SNS活用など）」の回答がやや多い傾向があった。



以上

参考文献 信金中央金庫 地域・中小企業研究所「第181回全国中小企業景気動向調査」